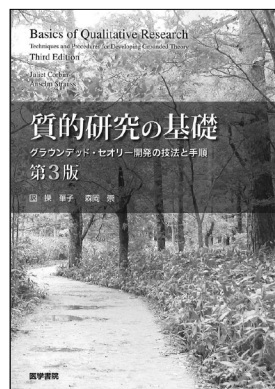


## 『質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリー 開発の技法と手順 第3版』

# グラウンデッド・セオリー 研究の道に迷ったときに 読む本

著：ジュリエット・コービン，アンセルム・ストラウス 訳：操華子，森岡崇  
定価：4,515 円（本体 4,300 円＋税 5%）／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



本書は、明日からでもグラウンデッド・セオリーを用いた研究ができそうな気にさせてくれる本である。表紙も手元に置きたくなるほど素敵で、写真の場所を訪ねたことがある人にとっては、「あそこだ！」と郷愁を誘う。

この第3版は内容が刷新されており、引用されている具体例が以前にも増してビビッドに迫ってくる。実際に多くの看護研究者を育ててきた著者らの教育経験に基づいているからである。パソコンでのデータ管理方法やメモの活用法も追加され、分析の具体的な例示には、ベトナム戦争帰還兵へのインタビューを用いている。ベトナム戦争帰還兵の症状が、PTSD (posttraumatic stress disorder: (心的) 外傷後ストレス障害, DV や虐待の被害者にも類似の症状がみられる) の発見の契機となったことは周知の事実である。PTSD にせよドラッグにせよ、なかったことにされがちなことに、看護研究者はあえて踏み込んでいく。看護学はどこに立脚すべきか、日本の看護教育ではあまり教育されていないのだが、立脚すべき一つの側面として、Social justice (社会正義) が看護学の根幹にあることをこの本は感じさせてくれる。

多少マニアックな観点からも一言。長年、グラウンデッド・セオリーの哲学は、技術と手順の解説に覆い隠されてきた。まさにグラウンデッド・セオリーが形骸化した御手前に成り下がろう

としたとき、哲学的前提はシカゴ学派の相互作用論とプラグマティズムである、と著者はその哲学を明示することで足場を取り戻した感がある。むしろ立場が明確で潔い。

さらに、本書では時代の動向を捉え、巧みに解釈学的文化人類学や現象学者の記したことを摂取して、伝統的な方法を刷新しようとしている。研究方法は時代とともに変わり得るのである。シャーマズ (K. Charmaz) の構成主義的グラウンデッド・セオリーなど、さまざまな修正版が編み出されてきているなかで、著者コービンのグラウンデッド・セオリーは、あえて揺るがない。抽象的に解釈し、概念でくくり、研究者が理論を開発することを中核に据えつづけている。ストラウスの魂を継承すべく、構成主義を意識しながらも、明らかにそれとは異なる立場を貫く。理論的サンプリング、ディメンション、プロパティ、継続比較、フィールドワーク、それらがどうかみ合うのかが示されているこの第3版は、1, 2 版をすでにお持ちの方にもぜひ一読いただきたい本である。

グラウンデッド・セオリー研究の道に迷ったとき、まさに本道はここにあり！ と言ってくれている。